

ユニバーサルデザインへ向けた 東北地方での取り組み

——雪国の歩道整備を例として——

国土交通省東北地方整備局道路部道路管理課

課長補佐

さとう
佐藤

かずのり
和徳

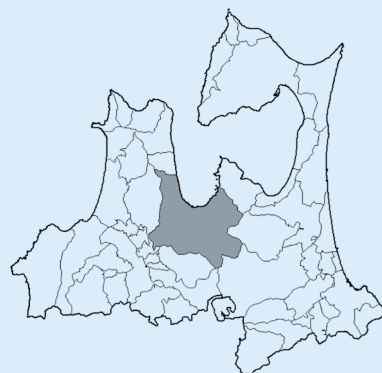
1. はじめに

バリアフリーは、高齢者や障害者などの特定の
人に対するさまざまなバリアを取り除こうという
観点から行われており、その一環である歩道のバ
リアフリー化も、国の重点施策の一つとして、東
北でもその整備が進められているところである。

最近では、バリアフリーから、障害の有無、年
齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用
しやすいようにするユニバーサルデザインへ考え
方の転換が行われてきている。

国土交通省でも、「どこでも、だれでも、自由
に、使いやすく」というユニバーサルデザインの
考え方を踏まえ、平成17年7月11日に「ユニバー
サルデザイン政策大綱」を公表したところであ
る。この政策大綱の中で、第一に謳われているの
が、「利用者の目線に立った政策の推進」であ
り、「構想策定から施設整備、運用管理に至るま
での各段階において、利用者、住民やNPOなど
も含めた関係者の多様な参加を求め、そのニーズ
を反映させること」が重要と記されている。

ここでは、豪雪で有名な青森市内の国道で平成
13年度から行われている、ユニバーサルデザイン
への試行ともいえる利用者ニーズを反映した雪国
での歩道整備事例について紹介する。



図－1 青森市位置図

2. 青森市の冬期バリアフリー計画

青森市は、青森県の県庁所在地で、人口約31.6
万人を有し、日本の県庁所在地都市で唯一特別豪
雪地帯に指定されている。青森市の1月の平均気
温は -1.4°C である。最大積雪深の年平均は111cm
にもなる。一晩で50～60cmも雪が積もることも
珍しくない。過去4番目の豪雪といわれた平成16
年度の冬期の最大積雪深は、178cmに達した。
こうなると、車道から除雪で寄せられた雪が、歩
車道境界に人の背よりも高く積もり、車道1車線
をつぶしてしまうので、夏場6車線の道路は冬は
4車線になる。当然、雪の壁がじゃまして、歩道
から車道は見えない。



写真-1 雪のため、6車線から4車線となり渋滞する国道



写真-2 雪で歩道が埋まり、車道を歩く学生

このような豪雪の青森市で、冬、歩道はどうなるか？

- ① 積雪により幅員が狭くなるか、または雪に埋もれてしまう。この結果、車道を歩かざるを得なくなる場合も珍しくない
- ② 点字ブロックは雪に埋もれてしまうため機能しない
- ③ 雪による新たな段差や凹凸が生じる
- ④ 雪や凍結により滑りやすくなった歩道での転倒事故の危険性が高まる 等

これらが、いわゆる物理的な意味での「冬期バリア」と呼ばれるものである。

青森市では、交通バリアフリー法の施行を受け、平成13年度に青森駅や県庁、市役所を含む青森市中心部の重点整備地区118haとその周辺の誘導地区250haを対象に、通常のバリアフリー対策に加え、雪国特有の冬期バリアへの対策として、

- ① 歩道融雪施設の整備
- ② 歩道除雪
- ③ 住民協力による歩行者空間確保

を主な柱とする「青森市冬期バリアフリー計画」を策定している。

青森市の冬期バリアフリー計画区域内には、国道4号および国道7号が東西に走っている。計画区域内の国道の歩道は、平成13年度から融雪施設



図-2 冬期バリアフリー計画路線図

整備年度と区間延長

整備年度	区間	延長
H13～H14	③	0.2km
〃	④	0.4km
〃	⑤	0.4km
〃	⑥	0.4km
〃	⑦	0.6km
H15	⑧	0.6km
H16	⑨	0.3km
H17 (工事中)	⑩	0.4km

の整備を開始し、平成17年度には、計画区域内の国道で、アーケードがすでにある区間を除いて、歩道融雪施設の整備を完了する予定である。

3. 利用者ニーズを反映した雪国での歩道整備事例

ここでは、平成13年度～平成14年度にかけて、青森市内の冬期バリアフリー計画区域内の国道で、延長約1.4km にわたり歩道融雪施設を整備した事例を対象に、利用者ニーズの把握方法や、利用者からの意見をどのように整備に反映したかを中心に紹介したい。

(1) 利用者ニーズの把握方法

青森市の冬期バリアフリー計画区域内の国道で、歩道融雪施設を本格的に整備するにあたり、利用者の代表として、日常、買い物等で歩道を利用する機会が多く、男性よりも細やかな視点をもっている女性の意見を把握するため、青森市内で、「ゆきのまち通信」等を発行し、多くの雪に関係する活動を手がけている企画集団ぷりずむ代表の杉山 陸子氏すぎやま りつこにお願いして、子供から学生、大人まで、多様な世代の女性から構成された「雪みち観察隊」を結成していただいた。

雪みち観察隊と国、県、市の道路管理者が合同で、雪の歩道を点検し、利用者ニーズの把握を行うことにした。

(2) 雪みち観察隊からの意見

雪みち観察隊の活動は、計画段階、施工前段階、施工完了段階の3回行った。

- ・計画段階：雪の歩道を歩いてもらい改善意見をいただいた平成13年度の冬期
- ・施工前段階：改善意見をどのように反映したか



写真-3 国道4号の歩道を点検する雪みち観察隊

を説明した平成14年度の夏期

- ・施工完了段階：融雪施設が完成した歩道を歩いた平成14年度の冬期

当初の計画は、幅員6mの歩道のうち、3.5mを融雪する計画であった。これは、民地側1.0mは、ガスや水道等の引き込み工事の施工余裕幅として、車道側1.5mは、車道から寄せられた雪の堆雪スペースとして必要なためである。

この当初計画を原案として、雪みち観察隊との冬期の現地調査で次のような意見をいただいた。

- ① 歩道と交差する狭い市道の車道部分も連続して融雪できないか。
- ② バス停がある部分は、バス待ちの人だまりができるので全面融雪して欲しい。
- ③ 車道から寄せられた雪がじゃまをして、バスがバス停の歩道端まで近寄ってこれない。
- ④ 横断延長の長い交差点の横断歩道も融雪して欲しい。

このような雪みち観察隊からの意見を受けて、歩道と交差する狭い市道の車道部は連続して融雪

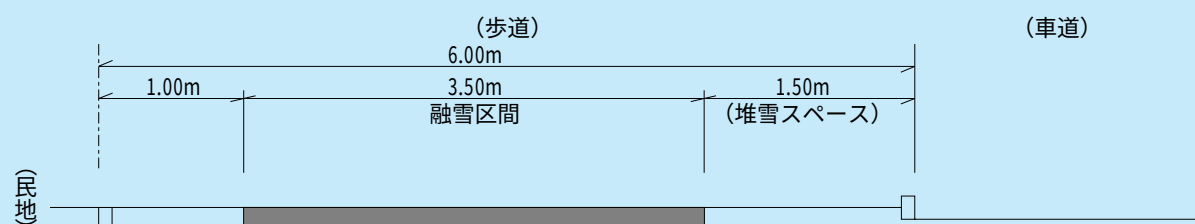
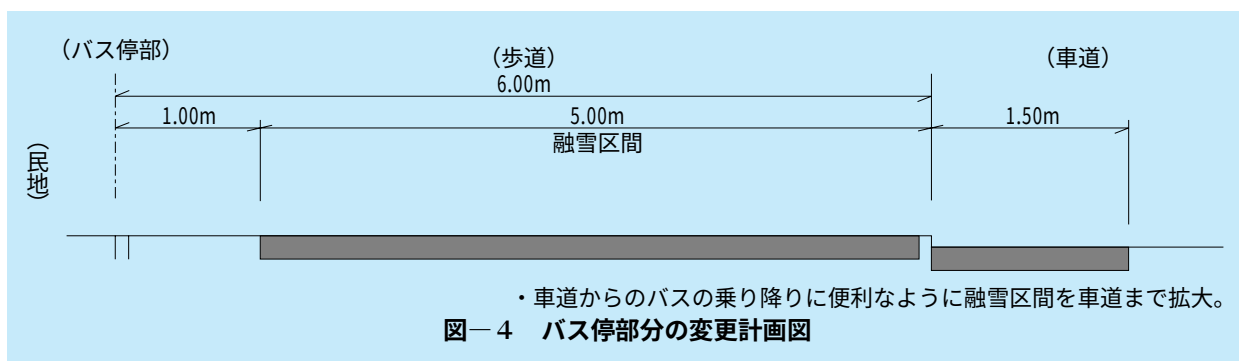


図-3 当初計画図



することにした。また、バス停部分も融雪幅を広げ、特に利用者の多い市役所前バス停については、車道からのバスの乗り降りに対応できるように、車道部分も融雪することにした。

横断延長の長い横断歩道部分の融雪については、狭い市道の場合とは異なり交通量も多く、車道部分の圧雪が、横断歩道部分ではなくなり、積雪の状況によっては、大きな段差が発生して、急ブレーキによる追突事故等、車両の通行が危険となる可能性もあるので、今回は見送ることにし

た。

これらの事業者としての対応方針を施工前段階での雪みち観察隊との現地調査で説明し、了解を得てから現地での施工に入っている。

(3) 完成した歩道の評価

平成14年度の冬期に、融雪された歩道での雪みち観察隊との現地調査では、「雪がなくて大変歩きやすい」「バス停で安全にバスに乗り降りできる」と大変好評であった。

並行して行った融雪区間での歩行者へのアンケ

整備前



写真ー４① 市役所前のバス停

整備後



写真ー４② 融雪幅を広げて、使いやすくなった市役所前のバス停

整備前

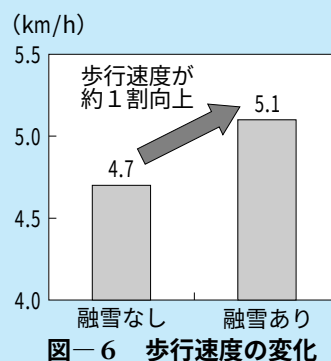
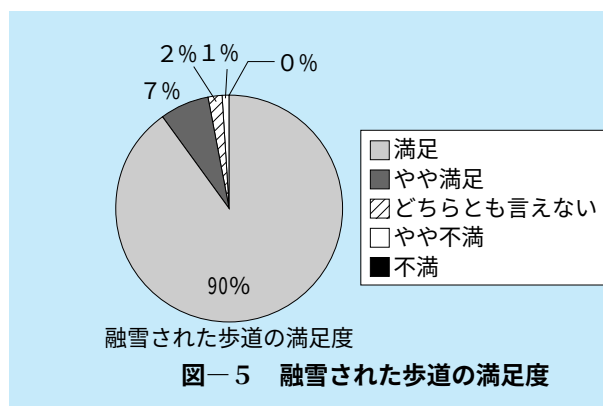


写真ー５① 雪の歩道から圧雪の車道を渡らなければならない

整備後



写真ー５② 狭い市道部分も連続して融雪されている



ート調査結果でも90%の方が満足と回答している。また、歩行者の歩行速度の調査結果でも、融雪されていない場合よりも約1割歩行速度が改善されていた。これは、すべて転ばないようにゆっくり歩いていたものが、融雪によりそのような心配が解消されたので、無雪期と同様な歩行速度が確保された結果である。

4. おわりに

ユニバーサルデザインと呼ぶにはまだまだ不備な点が多いと思われるが、今回、雪みち観察隊の意見を受けて実施した

- ① 車道部分まで融雪して、安全にバスに乗り降りできるバス停
- ② 歩道と交差する狭い市道の車道部分も連続して融雪

は、豪雪の青森でのローカルスタンダードとなり、その後の整備区間に活かされている。

一方で、融雪された歩道の整備延長が延びるにつれて、次のような意見も出されている。

- ・ゴミが目立つようになった（利用者のマナーの向上）。
- ・民地からの雪捨てにより、せっかくの融雪施設が機能しない。（モラルの問題。快適な歩行空間確保のための住民との協力体制の検討）。
- ・歩道の水溜まりをなんとかして欲しい（排水系統のチェック、舗装の平坦性向上）。
- ・信号付近に雪が溜まる（交差点部の融雪能力、範囲の検討）。

これらの意見は、事業者として解決可能な部分も多く、今後、より使いやすい雪国の歩道整備を目指して、利用者や、関係道路管理者との連携を深めていきたい。

雪みち観察隊の活動は、平成15年度以降の整備区間についても継続的に行われており、障害者の方の参加も得ながら、より多様なニーズの把握に大きな役割を果たしている。

なお、雪みち観察隊は、平成15年度からは、昭和58年の青森市の豪雪をきっかけに、市民が中心となり、行政と一体で雪と取り組むために発足した「北国の暮らし研究会」に加わり、北国の快適な暮らしを目指して、その活動の輪を広げているとともに、当方との良好なパートナーシップも保たれている。

【参考文献等】

- 1) 青森市冬期バリアフリー計画（平成13年11月）発行 青森市
- 2) 私たち雪みち観察隊（平成14年3月25日号）企画・発行 国土交通省東北地方整備局青森工事事務所
- 3) 私たち雪みち観察隊（平成15年3月25日号）企画・発行 国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所
- 4) 私たち雪みち観察隊（平成16年3月31日号）企画・発行 北国の暮らし研究会
- 5) どっさり雪奮冬記（2001年新世紀豪雪がもたらしたもの）2001年青森市の雪を記録する会
- 6) どっさり雪奮冬記（ノレソレ降ッたデバァナァ〜）青森市の雪を記録する会
- 7) 企画集団ぷりずむのホームページ
<http://www.prism-net.jp/>
- 8) 北国の暮らし研究会
<http://www.acci.or.jp/information/winter/kita-top.htm>